

待合室

発行 医療法人啓友会（〒569-1029 大阪府高槻市安岡寺町2丁目3番1号）

なかじま診療所

072(687)7561

啓友クリニック

072(689)3251

うの花訪問看護ステーション072(688)7564

老人保健施設洛西けいゆうの里

075(333)5290

No.133 2016年/ 8月号

◆中嶋啓子

「創立30周年を迎えての決意」

◆研修報告

介護支援専門員 石川努

◆観桜俳句選

選者 田中久子氏

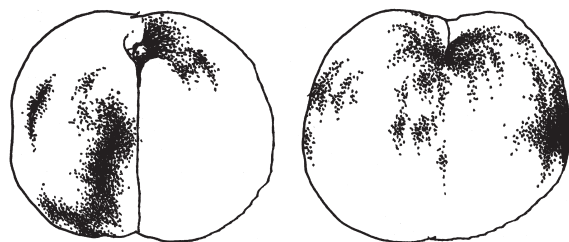
◆西山悦子 「30周年を迎えて」

◆フォト特集 4月お花見会

6月バス旅行

◆インタビュー 中田美智子さん

（表紙『もも』 中林 基）



1986.8.2
OSAMU

（医）啓友会30周年をむかえて

これまでお世話になった

先輩 後輩 友人達！

一緒に祝ってくださいなね。

医療法人啓友会

理事長

中嶋 啓子



■広島を出て神戸で3年、高槻に移って富田、下田部で10年、そして安岡寺で開業して30年になる。

年輪を刻めば私もいい年になるのは当たり前だが、しかし不思議なもので年齢を思うと「怖い」とも感じるが、私の気持ちはあんまり変わっていない。

「これから医療はどうなるのだろうか」「在宅医療を進めるといふが、どんな形で進めようというのか」「世の中どんなに変化するのだろうか」と「子供や孫はどうなるのだろうか」「安全保障はどうなるのだろうか」「再び戦争あり得るのだろうか！」「テロは淘汰されるのだろうか」「想定外災害はまだまだくるのだろうか」等々と心穏やかに成れないことが山積みであるが、（医）啓友会が、ささやかでも継続しておいてほしいという気持ちは変わっていない、築いてきたことが正しいこ

とならば継続していくのが当たり前である。しかし継続するには倍以上のエネルギーが要するということもわかる。私は、継続は力なりを信じて、明日をむかえたい。

■30年振り返って（医）啓友会の特徴は何といっても囲む会の存在であると考え。

囲む会へリフレンドと協働したこと、今でもしているが、よくぞ続いたと感心している。大企業でもなく、お金のしがらみもなく、政治、宗教のしがらみもなく地域内でのお互い助け合うという精神だけでこれだけでも長く続いたのは褒めてもらえらると思う。囲む会は「老いても障害を持っても住み慣れたこの街で心豊かに不安なく過ごすために 相互扶助を掲げて出発した。活動の柱は3つある。一つは訪問介護を行う介護保険部会、一つは軽費有償ボランティアの

へリオ部会、一つは地域部会として地域の交流と連帯をめざし医療と福祉の啓発、健康維持のための活動がある。ハイキング、登山、飲み会である。無償、軽費有償、仕事を1カ所が管轄するという難しい活動をしているが、それぞれが役割をわきまえて互いに助け合い、譲り合って活動をしている。面白いところである。

■(医) 啓友会がここまで来たもう一つの大きな支えは在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの全国的な活動である。

今年22回目を迎え鹿児島で全国大会がある。私達が在宅医療始めたときはまさに孤軍奮闘であったが、このネットワーク活動があったから、その後私は躍動感をもって仕事が出来たと感じている。厚労省にも行ったりして、走る回る忙しさと同時に往診に行き在宅医療を実践の中から創るといふ喜びにあふれていた。全国在宅療養支援診療所ができる先駆けにもなったと思う。診療所の中の仕事だけでなく囲む会という地域の人との交流あり、全国の診療所の先生や看護師、リハ、介護の人たちと広く外での仕事私達(医)啓友会を豊かにしたと感謝している。東京、名古屋、京都、大阪、岡山、ヒロシマ、長崎、熊本、など観光ではなくネットワークでいった。楽しかった。

■2025年団塊の世代が後期高齢者になって、重介護になって住み慣れた地域で最後までその人らしく生きるためには地域包括ケアシステム創りが進められている。

住まい 医療 介護 生活支援 予防が一体的に提供されるシステムは社会保障という観点で見れば理想的に近いが、言葉どおりに行くかどうか心配である。サービスを細かく分け利用者に見合ったサービスを提供するということは素晴らしいことだが、お役所仕事と言われるように型にはまるサービスを提供するのは簡単である。しかし、型からはみ出た方のサービスを組み立てるのは簡単ではない。宝を有効に使えるように、誰がマネジメントするのか大切である。たくさんサービスがあるということはサービスに差ができると

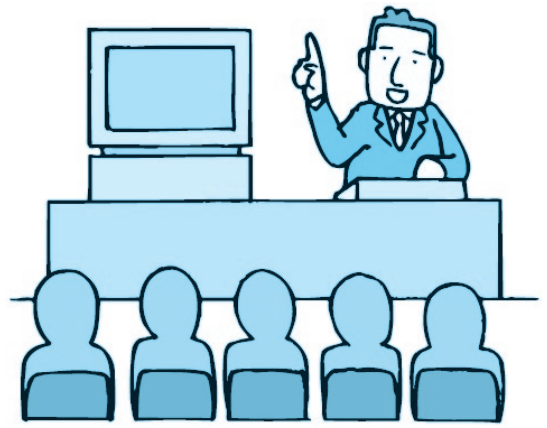
いうこととなりコストも違ってくる。細かく差をつけるということはどのサービスにも当てはまらないからと、どれも使えないことになる可能性がある。サービスが細かくなるということは格差をつけられないことに成り、格差が広がらないようにするべきと思う。

■私達は囲む会とともに相互扶助に取り組んできて、今回の介護保険から要支援を外し、総合事業を創るという改定が、ボランティア活動も評価してくれるという点で良かったと思っているが、一方で危惧がある。

ボランティアを安価で資格が要らないと質の劣る労働力として位置づけるならば、それは間違っていると思う。ボランティア活動とは人を助けることである。人を助けることは

自分を助けることであるという崇高な精神に貫かれた仕事というよりワークなのであり、順列をつけられるものではない。30年前に地域で生まれた囲む会へリオフレンドの活動は今回の地域包括ケアのミニ版ともいえるのではないかと感じている。地域で地道にやってきたことが認められたと考えればよかったといえるが、行政が住民の自主的活動を絡め取り再編成し格差をつけると考えられる複雑な気持ちになる。私達の活動が認められたね、そういう時代が来たねと前向きに言ってくれる人もないわけでは無いが、何故か急いで行政についていかなければ取り残されると思うのは被害妄想であろうか？焦ることはない。私達はいい形で継続していきたいと願っている。





研修レポート

大阪地域医療ケア研究会 「新総合事業と地域包括 ケアシステム」について

なかじま診療所
介護支援専門員

石川 努



■大阪地域医療ケア研究会に参加し、白澤先生の「新総合事業と包括ケアシステム」についての講演を拝聴しました。

他国と比較し我が国の課題についてお話されました。日本の介護保険は本人支援が主（介護保険法では「自立の支援」となっており、今後は家族支援強化が必要である。現在、社会問題となっている「介護離職ゼロ」「一億総活躍社会」においても家族支援は欠かせない援助との考えでした。

新総合事業では（訪問介護・通所介護）を対象に、柔軟な取り組みにより効果的かつ効率的にサービス提供できるとある。その内容は介護保険サービス↓市町村主体サービスへ移行され、各市町村（保険者）により実施する内容・開始時は異なるものとし、平成29年4月には全ての市町村で実施されます。

■訪問介護の選択範囲は以下の通りとなります。（通所介護においてもサービス種別あり）

【訪問型サービスA】
概ね現行と変わらず利用できるが、事業所の報酬が下がる。

【訪問型サービスB】
サービス提供がボランティア主体となる援助。

【訪問型サービスC】

保健・医療の専門職による日常生活動作や家事動作等の改善が必要なケースで期間は3〜6ヶ月の短期間で行う。

【訪問型サービスD】

移動支援におけるBに準じる。とあり、報酬は現行より引き下げられるが各市町村が単価を決め、利用者が選択できる。

私が担当する高槻市在住の利用者様については、具体的に示されており、把握もできていない現状のなか、移行される期日だけは平成29年4月開始と周知されています。利用者の方負担に關しても財務省の考えとして、介護保険負担割合の2割対象者の拡大や高額介護サービス費の対象要件の見直しを行うなど、所得水準や預貯金、財産を保有される方にとって負担増となる方向とのことでした。

■「当事者アンケート調査からみえてきたもの」

高齢社会をよくする女性の会の橋本氏より、ヘルパーの「生活援助」に焦点を当てたアンケート調査を拝聴しました。

今回の改定案では、要介護1〜2の方も軽度者と位置づけるとあります。簡単に言えば要介護1〜2の方は「生活援助」は介護保険では利用

できません（「身体介護」は現行とおり）。調査結果の一例で、生活援助は「要介護状態の重度化を防ぐ」6割、「どちらとも言えない」3割、「思わない」1割とありました。

この調査からもわかるように、悪化を防ぐだけにとどまらず、給付費の抑制にも繋がっているものと考えます。そして、「ご本人様やご家族様、介護保険事業所だけでなく、女性の会のような立場の方々が制度に対し関心を持ち、働きかけをされており大変力強く感じました。

■所感・まとめ

制度が見直される度に大きく変遷しており、利用者や家族の不安、介護保険事業所の経営難など多岐よりマイナスマ面を聞き入ります。介護職員が不足している観点からも、利用しやすいサービス内容や負担、事業所への適正な報酬なくして介護保険そのものが危ぶまれると考えます。

中嶋啓子先生のもと医療・介護が共に連携し「住みよい地域づくり」を掲げています。

私も介護支援専門員として、法人職員として、社会の一員として、制度が変われど進むべき場所は変わりません。今後も多くの方と関わり、時に支えてもらいながら、住みよい地域づくりに取り組んで参ります。

四月五日
摂津峡お花見会

観桜俳句選

選評 田中久子先生



最優秀賞 山内みどり

満開の桜のいのちに

母おもう



どんなに美しい花も最後にはおのづから散っていく定めをもっています。人もまた同じ。きれいな満開の桜を今ご覧になっているからこそ、この

後の花の命に重ね合わせてお母様の事を思われている娘様の心がしみじみ読者の心を打ちます。満開の花あればこそ、中七、下五が生きてきました。季語の力が良く生かされています。

優秀賞 上田八代子

和太鼓のはな揺りこぼす

花の宴



芥川高校四五名の学生さん達による見事な和太鼓演奏。胸にお腹に響いて、その鼓動は満開の花をも感動させたのでしょうか。中七にその様子が良く詠われています。「花」のり

フレインがうまく織り込まれており本日の花の宴の様子が上手に詠われています。

中嶋啓子賞 小林マリ

花篠 水面を染める

名残色



花の命は短い。散る花には格別の思いがあります。それも地上ではなく水面に散った桜をとらえて名残色と形容

されたのはさすがです。樹にある時とは違った哀惜の情をうたわれた目の付けどころが味わい深い句となりました。

春風満面賞 藤原千鶴子

花ふぶきあまいかほりに

笑顔あり



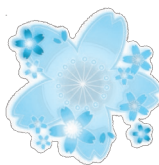
作者は視覚だけでなく臭覚をも働かせて作句している。本当に甘い香りがしたのであろう。ときすまされた感覚の鋭い御句である。笑顔あり、で

結びれたことで当日の様子がうまくとまり春風満面賞にぴったりです。

桜花賞 西田夏子

亡き夫を 偲びて巡る

花の下



花巡る時、今は亡き夫との思い出がい

ろいろ蘇る。俳句には時を超越した不思議な力がある。かえがえのない夫を偲びて巡る花の下。今生かされてある私。喜びと共にある種の哀愁を感じさせる御句です。

春爛満賞 高木建二

久しぶり 桜の下で

花見酒



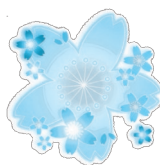
昔はお花見にはお酒が付きものでしたが、今はあまり酔客の姿も見られずお行

儀の良いお花見が多いですね。作者は久しぶりに花の下でおいしいお酒を召し上がりました。その嬉しさが佳句を生みました。酒は百薬の長と申します。句作にも効用があった様ですね。

思いやり賞 辻石泰之

寒に堪えいまぞ咲きたる

花を愛で



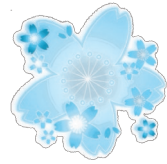
桜が咲くまでには幾多の試練が待っています。桜は冬の寒さに一定期間さらさ

れる事で芽吹く準備が整い気温上昇と共に一気に花を咲かせます。今年の冬は特に寒く作者はその事に思いやるやさしい心で花を眺めていられる。起句の「寒に耐え」に作者の気持ちが良いあらわれています。

撰津峡賞 河野瑞樹

咲くもよし

散るも又よし 桜かな

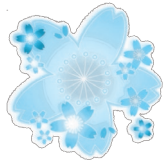


桜は日本の国花であり花の王です。故に咲く桜も散る桜も古くから詩歌に詠まれ日本人の心を捉えてきました。作者はそのことを踏まえて高槻の花の名所撰津峡の桜を上手に詠まれました。

ユーモア賞 西田良治

桜見て太鼓に弁当

皆うれし



桜・弁当・太鼓、嬉しいことを並べられて一読よく分かる御句でございます。この様に簡潔、直截に詠まれる事も作句には大切な事です。

ユーモア賞 福嶋二郎

春満開花の数だけ

笑顔あり



撰津峡には800本の桜が植えられています。その花の数だけ笑顔が有るとは

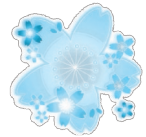
……誇張された表現に春満開の気分が満ち溢れています。

佳作

清野友義

また会えた覚えていたか

桜舞う



加世田静恵

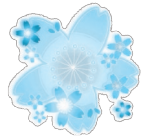
満開の桜の下で

みな笑顔

水尾静子

さくらさき 古き庭にも

春日もれ



沢田和宏

花に遠く 桜に近し

撰津峡

赤塚章子

花たちに まさる笑顔や

先輩の

仲森ツタエ

ここに来て 亡き友思う

花見かな

藤岡きよ子

咲き満ちて 今年も楽し

宴かな



晴天や風雨に耐えし

花仰ぐ

田中久子



選者略歴

府退職公務員連盟副会長

高槻市俳句連盟参与

俳人協会会員

鹿火屋同人

関西詩吟文化協会師範

本町在住



30周年を迎えて

西山悦子



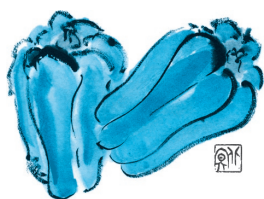
私も啓友クリニックに入職してから、早や17年となりました。多くの方との出会いと別れがありました。日々の診療では、当たり前のことですが、少しでもストレスを感じないでいただけるように心がけています。自分自身も、少しうつ的な時期があり、「これは気持ちに無理がないか」ということ（ストレス）は避ける、「楽になる」こと（コーピング）は取り入れる、などをより意識するようになりました。

昨年からはEMDR（眼球運動による脱感作と再処理）という治療法の勉強をしています。小さい頃からのトラウマとなる記憶の影響を改善する治療法です。外来治療で少しずつ取り入れていますが、重い影響のあ

る方の治療も出来るように勉強を続けていきたいと思っています。

最近の精神科領域での注目は発達障害といわれる分野で、自閉症スペクトラム障害、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害などが含まれ、対人スキルの問題や興味の偏りがあり、知的レベルが高いとそのことに気づかれず、学校でいじめられたり、職場での適応が難しくなったり、うつなどの二次障害を起こしやすくなります。

周囲との同調性が要求される日本では生きにくさを感じるものが多く、周囲も間違った対応をしてお互いにストレスになってしまっています。一割以上の方でその傾向があり、そういうことがあるということを皆が知っておくということが大切です。



啓友クリニック（神経科・精神科）

外来診察日 月曜～土曜（日曜、祝日は外来休診）

入院15床（ショートステイを含む）

管理医師 西山悦子

午前診察 受付 午前9:00～12:00（要予約）

午後診察 受付 午後1:00～5:00（要予約）

うつ病、統合失調症、認知症、職場や学校でのストレスからの心身の不調など、こころと精神についての相談と診療を行なっています。診療にはゆっくり時間をとるようにしていますので、お電話等にてご予約の上ご来院下さい。入院（15床）は在宅療養支援を目的とした短期入院用です。リハビリテーション室ではパワーリハビリテーション等を行っています。筋力の低下予防、維持、向上をマシンを使って行ないます。

569-1029 高槻市安岡寺町1丁目36番8号

JR高槻駅北口 寺谷行き 安岡寺東下車 徒歩スグ

電話 072-689-3251

ファクス 072-687-0887

啓友クリニック 通所リハビリテーション 介護予防通所リハビリテーション

ケアプランにもとづき、ご利用者お一人お一人のご希望とニーズに沿ったサービスを提供します。個別指導のリハビリ、みんなで行なう体操とレクリエーション、入浴、お昼ご飯もみんなでおいしく頂きます。

（定員20名×2単位）

送迎

9:30 健康チェック

10:00 入浴 手工芸などによる作業療法

12:00 お食事 休憩

14:00 体操とレクリエーション

15:00 おやつ時間

送迎

お花見、忘年会などの季節の行事や作品展示会など、ボランティアさんと力を合わせて行ないます。

電話 072-689-3251

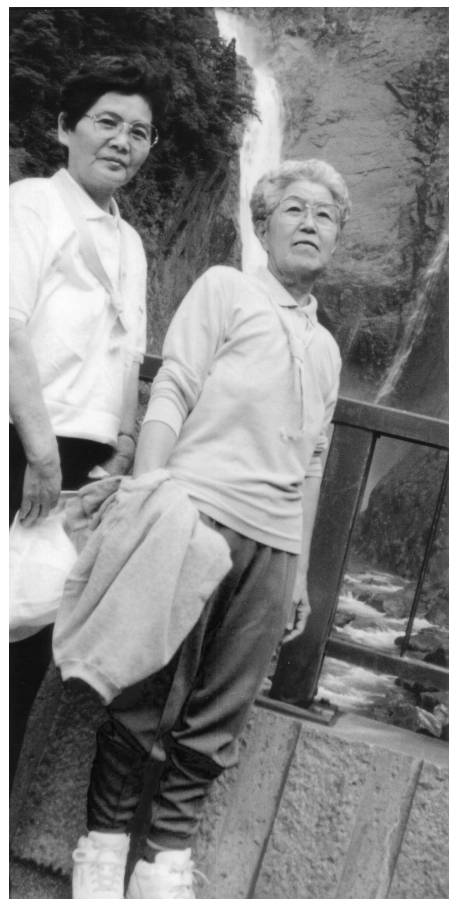
担当責任者 森田雅彦

小野稿樹（作業療法士）



4月5日、絶好のお天気に恵まれ、桜の名所摂津峡公園にて恒例お花見会を行いました。お花は満開。芥川高校和太鼓の勇壮なパフォーマンスは圧巻でした。





インタビュー

中田美智子さん

(安岡寺町在住、
写真は囲む会バス旅行、
隣りは百々智磋子さん)

いたかな

■主人の勤務先は浜理製薬株という製薬会社でした。それが高槻に工場が新設され、生まれて初めて堺を離れて高槻へ引越したの。引越した当初はそれはもう寂しかった。堺は都会で賑やかだったけど、高槻では夕方になったら家はないから外は真っ黒。そのとき初めて親子4人暮らしとなりました。

10年来の舅の介護が終わり舅を見送って義理妹弟も結婚して独立してね。

主人は長男やから、結婚したら長男の嫁のあたしが舅等の世話するのは当然のことでした。用事があってあたしの親元帰っても「義父さん一人放っておくとは何事か。早く帰って世話をみる」と言われてました。そんな時分です。とにかく大変でした。苦労しました。主人、主人の父、主人の妹と弟、まだ小さい子供たち、家族みんなの世話をあたし一人でせなあかん。買物も両手一杯抱えて。一日一時間こうやって座っている暇はなかったわね。クルクル動き回ってね。そう思ったら今は気楽ですよ。

■今の楽しみですか。中嶋先生に往診来てもらってましてね。病氣の話はほんの少しであとは無駄話し世間話し、ほんまにええ先生やなあ思います。

■中嶋先生のとこよりうちの方が安岡寺に家を構えたのは早かったですね。たしか中嶋先生は開業前は富田の方の病院に勤めて、そこを辞めはって、こちらで開業はしたんやね。安岡寺1丁目から5丁目まであるけど、うちは初期の初期やから7軒目の家になります。

高槻越した当初は、まわりは山と草ばかり、それはそれは寂しい所でした。50年前やね。うちの家からは池が丸見えで土地はぐちゃぐちゃ、息子が外から帰ってきたら玄関前で汚れた服を全部脱がさないかんくらい。夜になつたら外は真っ暗がり。あたしは40歳前後やね。

高槻来る前は堺に住んでました。有名な福助足袋の近くで生れも育ちも堺です。堺で生れてそこで大きくなって主人と結婚してそれから高槻暮らしです。

■堺いうたら包丁の街やね。祭りやいうたらどんだけ賑やかだったか。あたしの実家は洋裁屋を営んでいて縫子の職人さんも何人や雇ってました。それに私は末っ子なので、大事にされていきましたからね。まあお嬢さんでした。初恋？うーんどやったかなあ？子供時代にね向かいに住んでいる5歳上くらいのお兄ちゃんがいたの。「みっちゃん！みっちゃん！」言うて優しくしてくれてね。そのお兄ちゃんがあたしの初恋の人かな。

■あたしが小学校の5年、10歳のときに戦争始まったの。だからあたしたちは英語なんて習っていない。ABCやローマ字は学校で習ってないので独学で勉強しました。戦争終わった日の8月15日は家族揃って畳の上にもよこんと座ってラジオを置いて皆で玉音放送を聞いてました。天皇陛下が何事か言うてはるけど、天皇陛下がどんな人や

らもわからないし、言うてはる言葉の内容もわからない。ただ「戦争に負けた」ということだけは理解できていたと思います。その後日本がどうなるかはまったくわからない。進駐軍からお菓子をもらって食べたのは覚えてます。進駐軍のジープに向かって走って行って子供やから別に米兵が怖いことはなかったわね。とにかく食べ物がないいつもお腹がすいていたから恥ずかしいものにもない。喜んでもらいに走り寄っていました。

■戦後はそらえらい目にありました。

食べるものが何もなく、わずかなお米にそこへかやくご飯いうたら聞こえはいいけどほんまの草やね。草を摘んでそれをご飯に足していっしょに炊くの。まあお米はまっ黒けでね。それを姉と二人取り合って食べなあかんの。そういう苦しい生活が堺で2年3年続